

# わんちゃんの予防医療

ワクチン、寄生虫予防、健康診断について、当院の方針についてお知らせします

## ★寄生虫予防薬の通年投与をを推奨します

<フィラリア予防薬通年投与のメリット>

- ・1年中毎月欠かさず投薬をしていれば感染リスクは低く、毎年の検査の必要がない...健診の時期をフィラリアの混雑シーズンからずらせる
- ・フィラリア予防薬の成分はお腹の寄生虫（回虫など）にも効く
- ・ノミやマダニは冬でも暖かい室内で生息しているので、フィラリア予防と一緒にオールインワンの薬を毎月あげることで駆虫できる

12ヶ月



↳ フィラリア検査を否定するものではありません  
(飲ませ忘れや、飲ませたつもりが吐き出していった可能性もあるため、毎年検査をすることも、より安心につながります)

## ★年に1回以上の健康診断を推奨します

1歳以降、毎年お誕生日の月に健診を受けることもおすすめ！

高齢期では必要に応じ半年に1回の健診や、追加項目も推奨



## ★ワクチンは個々の状況に応じ、毎年接種or抗体価測定を相談します



トリミングやドッグランなどを利用するわんちゃんは、毎年の混合ワクチン接種をおすすめします

抗体価測定（血液検査）は健診の際に追加することができます

わんちゃんの年齢、体調、生活環境によって考慮すべきことはそれぞれ違います。また、獣医療におけるガイドラインや科学的知見は日々進化しています。皆様が安心してわんライフを送れるよう、オーダーメイドな健診、確実な感染症予防をわかりやすく利用しやすいカタチで提供できるよう、当院では努めてまいります。



予防医療とは

病気の治療を行う臨床医療に対し、予防医療は病気の罹患を防ぐ医療です。また、高齢化社会においては病気を防ぐだけでなく、健康寿命の延伸をめざす、総合的な健康増進のための医療です。感染症を防ぐこと、健康診断で病気の早期発見をすることは大事な予防医療です。

「One Health」 寄生虫予防やワクチンは、わんちゃん自身の健康を守るだけでなく、感染症の蔓延を防ぎ、人と動物の健康、社会や環境の健康につながります♥

## 健診コースのご案内

**健診わんコース** ¥7000  
(税込¥7700)

血液検査

- ・生化学13項目（腎機能、肝機能、血糖値、コレステロールなど）
- ・血球系（赤血球数、白血球数、白血球分画、血小板など）

基本の血液検査コース



**健診わんコース・プラス** ¥17000  
(税込¥18700)

健診わんコースの血液検査

+ レントゲン(胸腹部)、エコー(腹部・心臓)

シニアにおすすめ、  
血液+画像検査  
★事前予約必須★

## 健診オプション

- ・フィラリア抗原検査 ¥1500 (税込¥1650)
- ・ワクチン抗体価測定 ¥5250 (税込¥5775)
- ・局所エコー（泌尿器、子宮など）
- ・血液検査項目追加 など

わんコースにプラスして、  
犬種や年齢、既往歴に応じた  
オーダーメイドな健診を相談

※項目によっては、結果が後日になります。

※前年度にフィラリア予防薬を年中投与していない場合は抗原検査をしてください。

健診のご予約はこちら▶TEL:072-493-6710

その他詳細や最新のお知らせは当院HPやSNSへ [tokiwa-v.com](http://tokiwa-v.com)



ときわ動物病院

## フィラリアって何？

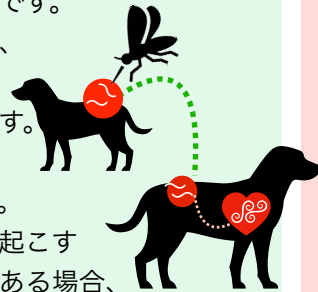
フィラリア（犬糸状虫）とは蚊によって媒介される寄生虫です。感染したフィラリア幼虫は数ヶ月かけて犬の体内で成長し、成虫は犬の心臓に寄生します。

咳や腹水、血尿などの症状が出て、死に至ることもあります。

予防薬は、フィラリア子虫をターゲットとして駆虫し

成虫になるのを防ぐもので、毎月投薬することが必要です。

フィラリア感染犬にいきなり予防薬を与えるとショックを起こすことがあるため、前年度に予防薬を投与していない時期がある場合、投薬前に感染の有無を検査する必要があります。



## ノミ・ダニ予防をしましょう

ノミやダニは体表に寄生し、かゆみや皮膚炎を起こすだけでなく、吸血による貧血を起こしたりもします。さらに、糸虫や原虫、ウイルスなどの様々な病原体を媒介することもあります。特にマダニは重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスを媒介することでも注目されています。人獣共通感染症を防ぐためにも、わんちゃんのノミダニ予防は重要です。

### オールインワン予防薬もおすすめ！！

フィラリア予防薬は、動物病院での診察・処方が必要な「要指示薬」です。内服or滴下、フィラリアとノミ・マダニの駆虫がオールインワンになったものなど、剤形や有効成分は様々な種類があります。体重や既往歴、薬の嗜好性など、それぞれに合う薬を選びましょう。



## 狂犬病ワクチンについて

狂犬病は、世界では毎年多くの方が亡くなっている恐ろしい病気です。毎年のワクチン接種が全ての犬に法律で義務付けられています。また、初回の狂犬病ワクチン接種時には飼犬登録、環境省へのマイクロチップ情報の登録もお願いします。

## 混合ワクチンについて

当院ではWSAVA（世界小動物獣医師会）のガイドラインをふまえてワクチンプログラムを実施しています

**コアワクチン**...すべての犬に予防が推奨される病気のワクチン

- ・犬パルボウイルス（CPV-2）感染症
- ・犬ジステンパーウイルス（CDV）感染症
- ・犬伝染性肝炎（CAV-1）
- ・犬アデノウイルスII型（CAV-2）感染症

**ノンコアワクチン**...環境やライフスタイルによって、接種が必要なワクチン

- ・犬パラインフルエンザウイルス（CPIV）感染症
- ・犬レプトスピラ病
- ・ボルデテラ感染症（現在当院では取り扱っておりません）

### ★子犬へのワクチン

- ・6～8週齢で初回接種、その後4週ごとに2回目、3回目を接種
- ・1歳齢で追加接種（免疫応答を高めるブースター）

### ★成犬へのワクチン

- ・トリミングサロン、ドッグランなど、他の犬が集まる施設を利用する子、池や公園などを散歩する子、旅行に行く機会の多い子などは年に1回、ノンコアワクチンを含む混合ワクチンを接種。
- ・ノンコアワクチンを必要としない子（お出かけをしない高齢犬や持病がある子）は3年に1回コアワクチンを接種、接種をしない年は抗体価測定をして、低値であれば接種。

ワクチンによる抗体価の上がり方や免疫の持続期間には個体差があるため、接種をしない年は抗体価測定をした上で接種の是非を判断することをおすすめします。

抗体価測定は健康診断と一緒に受けるのもおすすめです。

★ペットホテルやドッグランなどの施設によってはワクチン接種証明が必要な場合がありますので、事前にご確認ください。

★日本で認可されているワクチンの種類には限りがあり、また、流通の状況により、各々のワクチンを選んで接種できない場合もあります。